（別紙様式）

令和５年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

南足柄市立南足柄中学校

研究テーマ：思考力、判断力、表現力等が高まる授業の工夫
～主体的・対話的で深い学びをめざして～

１　実践の目的

本校の「学習意識調査」では、「自分だけで学習内容を理解できる」とする生徒より、「他者と対話的に学習する」ことに苦手意識を持つ生徒が多い。そこで、これまでの校内研究の成果を生かすとともに、生徒が主体となった学習を実現する授業改善に取り組むこととした。対話を重視しながら生徒の思考力、判断力、表現力等を効果的に育成する学びを創造することが、実践の目的である。

２　実践の内容

１　授業力向上

（１）話し合い活動（対話）による「深い学び」をめざした授業改善

主体的・対話的で深い学びに向けた授業実践に向けて、各教科で以下のような場面を促す授業改善を行う。

①他者の意見や表現活動を傾聴し、考えをまとめる。
②他者の意見や表現活動を受け止め、それについての自分の考えをまとめる。
③自分の意見や表現活動について、他者からの意見に対して理由を付けて発言する。
④思考ツールを用いて、複数の意見から新たな意見を生み出す活動を行う。

（２）ＩＣＴを活用した授業実践

ＩＣＴ機器の活用をしながら、教育効果の高い利用方法について整理をしている。

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙では、「学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使うのは勉強の役に立ちますか？」の質問に対し、98%が肯定的意見であった。また、ほぼ同数の生徒が、授業の際にＰＣ・タブレットを使用していると回答している。

９月 19 日に行われた校内研究全体会の１学年理科の授業では、ＩＣＴ機器の具体的な利用方法として次の３点が見られた。

①前時の学習内容の確認

ワークシート等を提示し、前時の既習内容の確認をしながら授業のつながりを意識させた。

②教材・資料等の提示

顕微鏡で見た様子をモニターに投影する。顕微鏡の使い方の見本を見せることで、生徒がスムーズに実験を進めることができた。

③アイディアの共有や説明

生徒が取り組んだワークシートを拡大提示しながら、生徒が説明することで、発表者が聞き手に分かりやすい説明をすることができた。

（理科の授業の様子：顕微鏡を用いた実験）

２　自らの言葉で考え、伝えることができる生徒の育成をめざした取り組み

（１）校長講話

全校集会には校長講話が複数回計画されている。校長講話を聴いた後、教室でその講話について感想や意見を書く「聴いて、考える、伝える」活動を一年を通して行っている。決まった答えや正解はなく、自分の考えを文章化することで、思考が整理され、表現力が向上している。自分と他者の考えの違いを知ることで価値観や多様性についても学ぶことができ、道徳教育もより促進されている。

（校長講話の様子：カマスの実験）

（２）生徒主体の生徒会活動

月に一度、各専門委員会で話し合った内容を Chromebook の classroom に投稿し、各学級で話し合い活動を行っている。各委員会の活動報告や検討事項が整理されているため様々な質疑が行われている。これらの話し合いを踏まえて、生徒会本部主催の「ゴミゼロプロジェクト」などの取り組みが毎年行われている。

また、昨年度から文化祭のステージ発表では、生徒会の本部役員がこれまでの取り組みを発表し、学校全体として考えを共有している。本部役員生徒の「学校をより良いものにしたい」という熱い想いが、学校全体に波及している。

３　実践の成果

１　対話を促進する学習の高まり

学習課題に対して、生徒間の話し合いにより、異なる見方や考え方に触れることができ、新たな視点で物事を考える機会になっている。対話的活動が各教科で取り入れられ、その具体的方法にも検証が行われている。対話的活動は生徒にも浸透しており、帯活動やペア・グループ活動では、すぐに話し合いを始めることができる。どんなによい学習方法でも、その活動方法まで理解することが難しく、時間がかかってしまうようでは、学習効果が減少してしまう。ルーティーンのように日常的に行われることで、生徒間の対話を推進することができている。

２　ＩＣＴを活用した学習

知識・技能を高める手段として、様々な場面で使用されている。様々なアプリケーションを用いることで視覚的、聴覚的に学習内容を理解するために役立っており、生徒アンケート（肯定意見 98%）から判断してもＩＣＴを活用した授業は、「生徒に分かりやすい授業」につながっている。

４　今後の展開

生徒の思考力、判断力、表現力等をさらに効果的に育成する学びを推進するためには、研究授業だけでなく、普段の授業から指導方法の工夫について改善を繰り返すことが大切である。教科を横断的に捉え、他教科の指導方法から積極的に学ぶ姿勢をもちたい。

また、近年はＩＣＴ活用に力を入れており、様々な活用事例が報告されている。状況に応じて、どのような指導方法が効果的なのか、生徒の実態と照らし合わせながら、理論と実践の往還を意識する必要がある。これらの課題を教職員で共有し、具体的な実践につなげていきたい。